



■新型コロナウイルス一色で過ぎてしまった観のある令和三年。今年は果たしていかなることになるのか。刀剣業界は、そして当組合は。年頭に当たって、今後の展望と組合のあり方について、深海信彦理事長に聞いた。

明けましておめでとございませう。皆さんは、令和三年の出をどのような決意で迎えられたでしょうか。

昨年は春先から新型コロナウイルス感染症の流行に見舞われ、刀剣業界も大きな影響を受けました。組合交換会は四月、五月と休会し、総会も紙面総会を余儀なくされ、「大刀剣市」も中止となりました。

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



理事長に聴く「刀剣界の展望と当組合の今後の課題」 相互扶助の精神に立ち返り、堅実な運営に徹しよう

2021.1.15 No.57
 発行人 深海 信彦
 発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
 新宿スカイプラザ1302
 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
 http://www.zentosho.com/

第57号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄
 伊波 賢一 大平 岳子 大平 将広 嶋田 伸夫
 清水 儀孝 生野 正 瀬下 明 土子 民夫
 綱取 謙一 土肥 富康 服部 暁治 深海 信彦
 松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏

私は本紙第53号で「この苦境に打ち克つ」と題し、何より命を大切にその後に備え、コロナとの長い闘いに耐えていこうと呼びかけました。

今年もコロナの終息がなければ何事も始まりません。確かに景気への影響は小さくありませんが、取引価格の上では、われわれの業界は比較的乱高下がない業種であるとは言えるでしょう。また、夏に東京オリンピック・パラリンピックが開催されるとすれば、これが国民の意識に好影響を与えないはずはありませぬ。刀剣界を後押ししてくれるような追い風となることは間違いありません。

思い返せば平成二十四年「エヴァンゲリオン新劇場版」と日本刀とのコラボレーションが始まり、国内二十数カ所に加え、パリやマドリッドでの展覧にも多くの観客を動員しました。同二十八年にはシミュレーションゲーム「刀剣乱舞」に登場されて刀剣女子が登場、そし

て昨年は「鬼滅の刃」が空前のヒットとなりました。いずれでも刀は重要なファクターです。メディアの関心も依然として高く、NHKBBSをはじめテレビ各局も日本刀を取り上げようとしています。刀剣に期待し、後押ししてくれる外からの風は、われわれも心え、内から何か新しいものを発信していきたいものです。

刀剣商の社会的地位と生活の向上を目指して

三十三年前の組合設立当時と現在を比較すると、加入組合員すなわち賦課金を支払っている方の数は、ほとんど変わりありません。ここ数年、百七十名前後の組合員数に対して、発足当時は百八十名前後。昨今の景気や他組合および公益法人の会員数の動向から見ると、この変動の差は驚くべき数字です。これはおそらく、全国中小企業団体中央会に加入する約二万八千の組合・団体の中でも数少ない事例

ではないでしょうか。

組合員数が半減したとなれば、組合自体の問題として対処しなくてはなりません。ほぼ同水準で推移してきた状況を見れば、安定しているように見えていでしょう。これが刀剣業界の実態を表す数字であり、内外の愛刀家に対応し得る、ほぼ必要にして十分な実数とも言えるのではないかと思います。あとは質の向上を目指すことがテーマになります。

われわれの組合は、そもそも何のために設立したのでしょいか。まず第一は「社会的地位の向上」。昭和六十一年の時点で、そのことがまさに悲願でした。当時、「刀剣商」という職業は電話帳にも載っておらず、古美術商の一分野として以外に社会的に認知されていなかったとさえ言えます。

三十三年間やってきた結果、どうでしょうか。諸官庁や関係団体から、刀剣商はその存在を認められ、職業として確立しているのを見られています。そ

う意味で第一の目的はほぼ達成しており、今後は継続してその信用をおとしめないよう、さらに認知度を高めるように努めなくてはなりません。

第二が「生活の向上」です。刀剣の売買は全て信用が基になっています。個々の刀剣商の社会的地位が向上し、信用が高まれば、おのずと刀剣商の生活は向上していきます。個々の利益については組合が直接関与できる課題ではなく、組合員であることの信用性を生かし、各自の事業の向上に役立ててほしいという事です。

組合では一昨年、個々の組合員がさらに生活の向上を遂げるために「刀剣評価鑑定士」という資格認定制度を事業化しました。どんな業界にも資格はあるのに、刀剣業界に今までの制度がなかったのは、むしろ不思議なくらいでした。この資格を得ることによって刀剣商の信用がさらに増し、売買の成果に表れ、生活の向上につながっていくという善き循環を目指しました。

この実現に、われわれは外部の機関の協力も得ながら膨大な作業を重ねてきました。このノウハウを生かして一般向けに「刀剣検定」が開設できれば、刀剣に一層の関心を持っていただけです。

今、若者男女を問わず学習意欲は旺盛で、上級学校に通う、専門的な研究サークルに参加する、得られた知識や情報をウェブで発信するといった傾向が至る所で見られます。このアカデミックな欲求に刀剣をもって応えようということ。世の中が落ちてきて条件が整ったなら、ぜひ刀剣検定の事業化に取り組みたいものです。それによって、刀剣商の利益にも寄与して

いくことを目指します。

組合活動の基盤となる「相互扶助の精神」

本当はこれが第一義なので、これが組合にとって最も重要な要素でありながら、一番足りていない部分です。

公助・共助が大事だと言うのは易く、自分と家族以外のために汗をかき、知恵を絞る、働くことは実は自己の利益とは相反するものです。しかし、誰かがこれを行わなければ組合そのものは成り立たず、維持もしてこれなかったでしょう。創立以来、働いている人は組合のために、ひたすら働いてきました。しかし、残念ながら、何らの働きもしない組合員が圧倒的に多くなったのが現実です。

現在の組合の収入源になっている公共関係、一般からの買入れや査定・評価に当たっている理事は、この二年間でS理事三十八回、H理事三十五回はじめとして九十六回も対応しており、遠くは愛媛県などもあり、行動が見える交換会や大刀剣市と異なり、組合員が全く知らないところでの自己犠牲は本当に貴いことで、今後、これが継続されていくのかという不安を覚えます。

この『刀剣界』も編集委員として関わっている方たちの無償の奉仕によって成り立っているのだから、紙面で取り上げられたり顕彰されたりしている方たちのほとんどは、制作に関わっていません。組合の行う交換会や大刀剣市にしても、参加して自らの利益を追求するだけで、組合員のために働こうとする人は少ないと思います。

銀座日本刀ミュージアム
泰文堂
 〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16
 岩月ビル2階
 株銀座泰文堂 代表 川島 貴敏
 TEL 03-3289-1366
 FAX 03-3289-1367
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉
 古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください！
 連絡先 090-8845-2222
 代表者 高島 吉童
 東京都北区滝野川7-16-6
 TEL 03-5394-1118
 FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀剣・書画・骨董
和敬堂
 土肥豊久・土肥富康
 〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
 TEL 0258-33-8510
 FAX 0258-33-8511
<http://wakeidou.com/>

刀剣古美術
 三峯美術店
町田久雄
 埼玉県秩父市野坂町一十六六一
 西武秩父駅連絡通路町久ビル内
 TEL 0494-133-3067
 FAX 0494-133-3067

大阪刀剣会
吉井唯夫
 美術刀剣、小道具、武具類の
 売買、加工及び御相談承ります
 大阪市中央区日本橋二丁目一
 TEL 06-6631-2210
 FAX 06-6644-5464

刀 剣 界

このままでは組合の永続性はない、という懸念は何年も前からありました。それでも続いてきたのは、創立当時を知り、その精神を伝える人たちがいるからであって、今や七十歳代となっています。未だ現役で組合活動を行っている方たち数名のパワーが衰え、相互扶助の精神が受け継がれなくなれば、どうなるでしょうか。その結果は既に見えつつあると言っても過言ではないでしょう。

組合に加入させたいければ、出資金二万円を払いさえすれば、組合が何かしてくれるだろう、と思っているとしたら、それは間違いです。そうではなくて、組合は相互扶助の精神に基づいて、社会的地位の向上と、個々の組合員の生活向上に寄与し得るように諸官庁や公益法人、団体等と情報交換をしなればなりません。その組合の努力を、個々の営利にぜひ生かしてほしいのです。

残念なことに、組合が先細りするとなれば、最大の要因は、相互扶助が成り立っていないという点でしょう。このような事例は、政府の外郭団体である中央会に加入する組合・団体にあまねく共通しています。われわれの組合も相互扶助がない限り、発展の見込みは薄いということ、ぜひ理解していただきたいのです。

すなわち、皆のために尽くせば、やがてそれは我が身に返って来るという事です。

変化の中での大刀剣市や交換会のあり方

大刀剣市に関しては、組合の一行事にとどまらず、広く内外から注目されて三十二回を数え

ました。これは長くも悪くも、刀剣商が外部から評価を受ける機会です。良ければ高く評価され、いったん不祥事でも起これば、一部の組合員がその原因であっても全組合員・全刀剣商の関与が疑われかねない事態にもなります。まさに諸刃の剣であるので、さらに慎重な運営が求められます。

歴代の理事長が意図してきたのは、この組合を維持するためには、交換会と大刀剣市を拡大発展させることでした。大刀剣市は唯一外部に刀剣商の良い実態を知らしめるということ、大いに意義がありました。回を重ねて出店数は多くなりましたが、今後同じやり方で良いものなのでしょうか。

運営方法にもいろいろあって、組合が主催する今までの通りの方針もありますが、ほかにも大刀剣市を発展させる方法はあると思います。その検討段階に入っているのではないのでしょうか。

昭和の発想・やり方と、平成・令和とはそれぞれ異なっているかと思えます。十年一昔と言いますが、人の心や社会の仕組みが同じであるはずがありません。その変化に合ったやり方を表現していくことが重要です。

コロナ禍の厳しい状況下にあるからこそ、その機会を捉え、組合が昭和から平成にかけてやってきたことを、令和に向けて根本から見直してはいかげでしょうか。そのためには莫大なエネルギーが求められますが、覚悟を持って改革に当たらなくてはなりません。

交換会のあり方や与信の制度、取引方法や開催回数についても見直しが迫られています。前述の組合員数とも関係しま

すが、新しい組合員が多くなればなるほど、交換会での信用に問題が生じる可能性が高まります。現在の交換会における買入高制限は二百五十万円ですが、加入者の増加という歓迎すべきことの一方で、無担保状態での与信の問題も生じてきます。あえて申し上げれば、組合の諸事業を行うに当たってネックとなっているのが、誤った解釈の平等の原則です。組合員の平等の原則と経済の原則を同時に満たしていることとすると、そこに矛盾が生じます。交換会の与信にしても然りで、一律の信用を与えてきた結果、経済的に行き詰まった組合員により被害を被った例が過去にいくつもあって、組合の財政を圧迫してきました。

この辺りも慎重に見直しをすべき点であろうと思います。

評価査定と買入に重点を置く組合運営へ

それでは、組合活動の基盤を何に置くかということになりま。組合を円滑に維持していくには莫大な資金を要しますが、設立当初から財政は交換会の歩金収入に大きく依存する傾向にあります。

それによって収支予算を組んできたそのやり方が今、通用しなくなりつつあります。昨年はコロナの影響も大きかったのですが、実は一昨年もその前も低下傾向にありまして。昨年の三月以降には、会場費などの開催経費が歩金収入を上回る月が三回ありました。このような経営形態は、形の上では収支予算が作れても達成できていないのが現実であり、令和三年度その実現はきわめて難

しいと言えます。では、それに代わるものはあるかと言うと、一般から買入れた刀剣を組合の交換会で売却し、その差益を組合運営の経費に充てているのが現状です。先ほどの相互扶助の話にも出てきましたが、長年にわたって積み重ねてきた正直な買入担当役員や事務局員の真摯な対応のおかげで、その額も増加しています。

しかし、これは気をつけないうと、一般の組合員の買入を阻害するかもしれません。組合が公益的な機関とすれば、いわゆる民業の圧迫となりかねません。

一般的な買入れや処分に関する話は、全国の個々の刀剣商が独自の戦略を展開し、自由競争で大いに買入れしていただきたい。組合は決してそれと競合したり、阻害するものではありません。

しからは、組合が民業を圧迫しないで買入れをするにはどうしたらいいのでしょうか。最近では期せずして、都道府県の教育委員会から紹介を受ける例が増えています。登録審査に来た方に相続のための査定や売却の相談をされた場合、そこでは個別の刀剣商や古物商を紹介するわけにはいきません。組合はその受け皿になる資格があるし、それは国の認可を受けた組合の使命でもあると言えるでしょう。

持ち主や遺族の意思として、査定価格が高いから売る、安いから売らないということとは別に、先祖から伝えられたものだから公的な機関で処分したい、時には安心できるところに寄付したいという方もおられます。組合はそうした期待に応えてい

きたいと考えます。今後は、教育委員会や公益財団法人などの公的機関に刀剣類の評価査定や売却の相談があった場合、組合をご紹介願う仕組みを確実にしていきたいと思えます。この事業を充実させることに、展望が開けることを期待しています。

なお、組合員の皆さんにご理解いただきたいのは、時には遠方出張し、買入れや査定に当たる役員も個々の事業者などという事です。しかも無報酬です。私も兵庫県警察本部まで買取り査定に訪問したことがありますが。理事長の職にあれば当然のことですが、それ以外の理事が年間平均して四十八回出勤し、組合の収入を支えているのです。

「民業の圧迫だ」と言う前に、この辺のところがしっかり見ていただきたいものです。組合の看板を担いで行ってくれる方も、普段は民業の従事者なのです。この相克に耐えている現実をわかっていただかないと、相互扶助は生まれません。

平成三年、今から三十年近く前に制作した『やさしい刀』は、発見届から名義変更、諸法規まで網羅しています。この目的は、組合員が商売に活用していただくことと併せ、警察庁所管の組合だから、防犯行政に協力する姿勢を示そうということもありました。

われわれの商売を有利に展開させようとの目的で、発見届の円滑化をまず取り上げています。一般の方もわれわれ刀剣商も、善意の届け出に対しては経

緯は問われず、届け出たことを尊重して受理されるようにという警察の理解を得るためです。

次に、これは実は文化庁や教育委員会の管轄ではあったけれども、銃刀法第十四条に則り所有者変更届を励行しようと、広く呼びかけを行いました。三十年間呼びかけた結果、発見届がスムーズに行えるようになったかと言うと、必ずしもそうはなっていません。それに対して、所有者変更は刀剣商が率先して届け出るようになり、以前と比べて莫大な所有者変更届け出数となりました。

しかし、その結果、予想以上に、行政側のミスも含めて、銃砲刀剣類登録証の改ざんが露呈してきました。それにより、正直に所有者変更届をして合法的に刀を持つという当事者が、自分の関知しない過去の問題の責任を問われることになってしまったのです。

登録証の記載内容と台帳の情報に少しでも違いがあると、届け出は受理されません。教育委員会の担当者や登録審査委員の転記ミス、銘文が読めないことによる誤記などで、届け出をする側に何ら落ち度がない場合も同じです。

甚だしい教育委員会に至っては「警察へ行ってくれ」「刀を元の持ち主に返してくれ」と言うばかりです。事件性のない刀を警察に持っていったり、元の持ち主に返したりして解決することでしょうか。

われわれが合法的に刀剣を所持できるようにと長年努めてきたのに、所持者が不利益を被る最悪な事態を導いてしまったのです。こんなことなら所有者変更届の励行など、むしろ呼びか

けなければ良かったのではないかと批判さえあります。この件については引き続き、教育委員会・文化庁・警察庁に理解や善処を求めていきますが、警察は文化庁の問題だとあまり積極的ではなく、文化庁が重い腰を上げるかどうか、確信はありません。

「相互扶助の精神」を今こそ

組合の実情を組合員や賛助会員ばかりでなく、外部の諸機関、関係各位にも知ってもらおうことを大きな使命の一つとして本紙「刀剣界」を発行してきました。十年間でそれなりに成果を上げてきたのではないかと自負しています。

当組合の理想は「小さな組合」です。大きな組合にする人も金もなく、必要もありません。今後は外見的に目立つ組合の事業を展開するよりも、もっと基本的な問題に取り組み、それを行政に直接・間接に伝え、個々の組合員の事業に大きく役立つことをやっていく小さな組合を目指すべきだと思います。

大きなことは、大きなリスクが伴うものです。リスクのない小さな組合作りこそが、長く存続する秘訣だと思います。関係諸団体や関係官庁との関係を緊密にし、一般の方からの買入れ情報や防犯情報を受発信する情報基地としての事務局を、強力に機能させていきたいと考えます。それが存続の基となることを確信しています。

設立の精神に返って、皆さまとともに相互扶助を目指し令和三年の年頭に当たり、あらためてこの言葉を掲げたいと思えます。

木造建築支える「匠の技」が ユネスコ無形文化遺産に

国連教育科学文化機関(ユネスコ)は十二月十七日、オンラインで開いた政府間委員会で、日本が申請した「伝統建築工匠の技―木造建造物を受け継ぐための伝統技術」の無形文化遺産登録を決めた。

宮大工や左官職人らが古くから継承してきた十七分野の技術の価値が世界的に認められたわけで、能楽や和食に続く国内二十二件目のユネスコ無形文化遺産となる。

十七分野は木工や左官、瓦屋根や茅葺き屋根、建具や畳の製作のほか、建物の外観や内装に施す装飾や彩色、漆塗りなどを含む。木や草、土といった自然の素材を活用し、奈良・法隆寺などに代表される日本の伝統的な建築文化を支えてきた。

これらはいずれも国の選定保存技術で、それぞれの保存団体も認定されている。

ユネスコの評価機関は事前審査で、大工の棟梁らが「弟子を鍛え、知識や技術を伝えてきた」とその価値を認める一方、近代化に伴い後継者育成が難しくなっていると、保護の必要性にも言及した。

顧みれば、刀剣・和鉄の分野では、日本刀・刀剣研磨・肥後象嵌が重要無形文化財の対象であり、玉



茅葺の過程で大バサミによる刈り込み

鋼製造(たたら吹き)刀装(鞘製作)修理・甲冑修理・木炭製造などが選定保存技術となっている。いずれはこれらもユネスコ無形文化遺産に登録されていくべきではないだろうか。

伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術

選定保存技術	保存団体	選定保存技術	保存団体
1 建造物修理	(公財)文化財建造物保存技術協会	11 屋根瓦葺(本瓦葺)	(一社)日本伝統瓦技術保存会
2 建造物木工	(一社)日本伝統建築技術保存会	12 左官(日本壁)	全国文化財壁技術保存会
3 檜皮葺・柿葺	(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会	13 建具製作	(一財)全国伝統建具技術保存会
4 茅葺		14 畳製作	文化財畳保存会
5 檜皮採取		15 装演修理技術	(一社)国宝修理装演師連盟
6 屋根板製作	(一社)日本茅葺き文化協会	16 日本産漆生産・精製	日本文化財漆協会
7 茅採取			日本うるし掻き技術保存会
8 建造物装飾	(一社)社寺建造物美術保存技術協会	17 縁付金箔製造	金沢金箔伝統技術保存会
9 建造物彩色	(公財)日光社寺文化財保存会		
10 建造物漆塗			

※文化財保護法に基づく国の選定保存技術 17件 (14団体)

組合こよみ (令和2年11~12月)

- 11月5日 組合事務所において松本理事が刀剣の評価・査定
- 13日 組合事務所において服部副理事長と清水専務理事が刀剣の評価・査定
- 17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加45名、出来高3,720,500円
- 17日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第57号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・土子民夫氏
- 20日 組合事務所において綱取常務理事と持田理事が刀剣の評価・査定
- 27日 組合事務所において服部副理事長と清水専務理事が刀剣の評価・査定
- 12月2日 参議院議員会館における「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」総会に深海理事長と土子氏が出席。
- 12日 銀座会議室において臨時常務会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・生野理事・持田理事
- 17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加47名、出来高5,339,000円
- 17日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第57号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・持田理事・赤荻監事・土肥富康氏・土子氏
- 21日 清水専務理事と嶋田常務理事が刀剣評価・査定のため出張
- 22日 服部副理事長と生野理事が刀剣評価・査定のため出張

「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」総会を開催

刀剣関連の概算要求額は前年比73%増



挨拶を述べる細田博之共同代表



名刀を手にとって鑑賞する議員の皆さん

去る12月2日、参議院議員会館会議室において「和鉄・刀剣文化を保存振興する議員連盟」の総会が開催された。国会の会期終了を間近に控え多忙な折にもかかわらず、加盟する十数名の議員が参加された。関係団体として公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)・公益財団法人日本刀文化振興協会(吉原国家理事長)等とともに当組合にもオブザーバー参加の招請があったので、深海信彦理事長が出席した。

総会は事務局長・山田宏議員の司会で進められ、最高顧問の高村正彦議員、共同代表である竹下亘・細田博之・甘利明各議員からはそれぞれ冒頭の挨拶の中で、新たな人間国宝の誕生に期待し、日本刀を議連の力で盛り立てていくことの意向が披露された。

続いて、文化庁の田村真一文化財第一課長から、刀剣・和鉄文化振興に関する令和3年度の概算要求状況と、令和4年に開催が予定される第1回「現代日本名刀展」(仮称)の現況について報告があった。

それによると、次年度の概算要求額は4,649万円と、令和2年度予算2,684万円に対して1,965万円(73.2%)の増加となっている。

その内訳は、

- ①文化財研修事業(伝統工芸・文化財保存技術)への支援
令和2年度1,530万円→令和3年度概算要求額3,023万円(1,493万円増)
 - ②日刀保たたらへの支援
同465万円→465万円(前年同額)
 - ③国宝・重要文化財美術工芸品保存修理抜本強化事業(刀剣修理関係部分)
同335万円→835万円(500万円増)
 - ④美術刀剣刀匠技術保存研修会への支援
同354万円→326万円(28万円減)
- 次年度の傾向として、刀剣関係団体によるこれからの作家・関連技術者の発掘育成や、伝統工芸の継承に必要な用具・原材料・技などを支える人材の養成、刀剣を活用した地域振興・観光振興に資するため、国指定文化財の保存修理に特に大きな支援が行われるとみられる。
- これらについて特に意見や質問もなく、幹事長・逢沢一郎議員の挨拶をもって閉会となった。
- その後は、日刀保が用意した刀剣と刀装具の鑑賞会が行われた。議員会館に許可を得て刀剣が持ち込まれ、鑑賞に供されるのは初めてとのことで、議員の皆さんも名品を手にとって至福のひとつときを味わっていた。

マイナンバーカードのご案内

これからは手放せない! マイナンバーカード

お申し込みは「おまかせ」

暮らしを便利に! マイナンバーカード!

健康保険証として使える!

0120-95-0178

日本刀の
江州屋
名品・名刀を販売

店主 小暮 昇一

〒529-1131
滋賀県愛知郡愛荘町香掛15
TEL 090-1493-1155
FAX 090-1493-1155
http://www.goushuya-nihontou.com

アオバ企画(株)
高橋 一

〒130-0012
墨田区大平四一九二一三〇八
TEL 03-3611-1111
FAX 03-3611-1111
Eメール aobak@pb8.so-net.ne.jp

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 **飯田高遠堂**
代表取締役 飯田慶雄

〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
http://www.iidakoendo.com

日本刀・刀装具
販売・買取

美術刀剣松本

松本 富夫・松本 義行

TEL.04-7122-1122
千葉県野田市清水199-1 刀剣松本 検索

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑

日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.

(株) 日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

刀 剣 界

交換会紹介

刀剣青年会の準大会を開催

十一月二十六日、東京美術倶楽部において刀剣青年会の準大会を開催しました。このような時節柄にもかかわらず、たくさんの方にご出席を賜り、誠にありがとうございました。

会場ではマスク着用、検温、消毒、ポテを二列にするディスプレイの確保など、感染防止に努めました。ご協力ありがとうございました。

刀剣青年会は、全刀会において

若手が会のシステムを理解し、これからの刀剣会を背負っていく人物に育つようにという目的で始めました。その名目通り、セリ発句から伝票書き、会計、受付、宿泊手配など細かい部分まで青年会が役割を分担して行います。

いきなす。それが今後の刀剣会につながるべく感じました。会の進行でいろいろな不手際などもあったと思いますが、皆さまに温かく見守っていただきお力添えを願ったため、無事に盛会で終わることができました。また、出来高も予想を大きく上回ることで済みました。感謝します。



盛会だった青年会準大会

「おさふね刀剣の里」で修復始まる

ミャンマーのアウン・サン・スー・チー国家顧問兼外相の父アウン・サン將軍遺愛の日本刀の修復作業が先ごろ、「備前おさふね刀剣の里」(岡山県瀬戸内市)で

開始された。赤磐市の研師、横山智庸さんの仕事の進行に合わせて鍔や白鞘の製作も行われ、今年十月の完成を目指す。

刀の作者は重要無形文化財保持者(人間国宝)高橋貞次。刃長六九・一センチ。昭和十六年に飯田祥二郎陸軍中将がビルマ(現ミャンマー)方面第十五軍司令官に就任するのを祝って、当時の村山長

拳朝日新聞社長が贈呈。その後、飯田中将からビルマ独立運動に挑むアウン・サン將軍を激励するために贈られたとみられる。

昨年二月にスー・チー氏から日本財団に修復の依頼があり、相談を受けた瀬戸内市を介して横山さんが手掛けることになった。

横山さんは「祖父がミャンマーで戦死しており、不思議な縁を感じる。大変な仕事ですが、しっかりと研ぎ上げたい」と語っている。修復後は了解を得て公開する予定。

刀剣交換会「大宮会」が開場

新年一月九日より毎月九日、新しい刀剣市場「大宮会」がスタートします。場所は埼玉県さいたま市大宮区。新幹線と在来線が乗り入れ、東日本の交通の要衝となつた大宮駅から徒歩一分。会場は駅東口を出て賑わう通りに面したオフィスビルの六階。広さ八〇㎡ほどある好拠点です。

会場では北関東方面の刀剣商活性化と、若い刀剣商の育成を目指します。東京の刀剣市場に比べて、大宮会は北関東方面の刀剣商活性化と、若い刀剣商の育成を目指します。

大宮会を開設した経緯や動機などをお聞かせください。

北関東を中心に馴染みのない刀剣商が多く、その方々には購買意欲があり、年齢層が厚い。潜在的な魅力を感じ、開場に至りました。

大宮会の特長、他の市場との違いなどをお聞かせください。

買い発句で現金会、成り行き入札を行います。

大宮会は北関東方面の刀剣商活性化と、若い刀剣商の育成を目指します。東京の刀剣市場に比べて、大宮会は北関東方面の刀剣商活性化と、若い刀剣商の育成を目指します。

大宮会の特長、他の市場との違いなどをお聞かせください。

買い発句で現金会、成り行き入札を行います。

大宮会の特長、他の市場との違いなどをお聞かせください。

買い発句で現金会、成り行き入札を行います。

野田会大会を筑波山麓で開催

菊薫る十一月三日、野田会(松本義行会主)が筑波山江戸屋ホテルを会場に大会を開催しました。

当初は五月に予定していたのですが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令により、十一月開催になったという事です。

出席者の減少も心配されましたが、例年通り五十名以上の参加がありました。

九時半売り番抽選、十時開会、松本富夫会長の挨拶の後、会主の成り行きつづぶ品・委託品の順でセリが始まりました。

今回も会主・参加者からの出品数が非常に多く、朝方は足の踏み場もないほどでした。

三十分の昼食休憩を挟んで、夕刻五時過ぎまで活発な取引が続きました。途中だれることもなく、和やかな中にも適度な緊張感が最後までありました。出来高も最高額更新となったそうです。

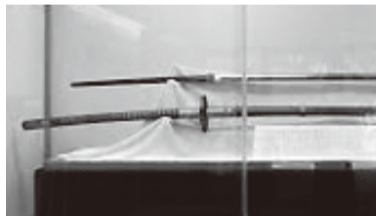
懇親会となると、筑波山名物ガマの油売り口上の披露や景品付きのイベントなどもあり、大いに盛り上がりました。



活発なセリで賑わった野田会大会

日ごろの感謝をお伝えし、お互いが親睦を深め、より活発な商売につながることを願っています」とお礼の言葉がありました。野田会ですますの発展を祈念します。

(赤荻 稔)



草薙館には真柄の太太刀が常設展示される

NEWS & TOPICS 熱田神宮が真柄の太太刀を常設展示へ

国宝や重要文化財を含む多くの日本刀を所蔵する名古屋市の熱田神宮に今秋、刀剣の展示施設「剣の宝庫 草薙館」がオープンする。

館の建設は、天皇陛下即位を祝う記念造営事業。神宮のご神体で、三種の神器の一つ、草薙剣にちなんで命名された。鉄骨造り、延べ床面積約七〇〇平方メートル。

同神宮は古来、武家や刀匠の信仰を集め、武具類が数多く奉納されてきた。国指定の刀剣も二十振を数える。

草薙館には日本屈指の太太刀とされる真柄の太太刀が常設展示される。

真柄の太太刀とは戦国時代、織田・徳川連合軍と浅井・朝倉連合軍が衝突した姉川の合戦で、朝倉方の真柄十郎左衛門直隆と千郎直基の父子が用いたとされる通称「太郎太刀」(次郎太刀)の二振のこと。太郎太刀は刃長二二・五センチ、次郎太刀も一六・七センチある。



アウン・サン將軍遺愛の軍刀

NEWS & TOPICS 小川盛弘氏に文化交流に貢献

文化庁では、文化活動に優れた成果を発揮し、わが国の文化の振興に貢献された方々や、日本文化の海外発信、国際文化交流に貢献された方々に対し文化庁長官表彰を行っているが、この度、令和二年度の被表彰者が発表された。

刀剣関係では、メトロポリタン美術館武器・武具部多量特別顧問、ポストン美術館名誉日本武器武具部長の小川盛弘氏(74歳)がその栄に浴された。

おめでとうございます。

その功績は、長年にわたり、日本刀文化の専門家として内外の日本刀資料の調査・研究に従事し、教育普及に努めるとともに、わが国を代表する日本刀文化の国際交流の発展に多大な貢献をされてきたことにある。

氏は、國學院大学史学科を卒業後、佐藤寒山師の門下生として研鑽を重ね、二十四歳時に渡米、五十年の長きにわたり斯界で活躍してこられた。

展示会の開催で特筆されるのは、二〇〇九年のメトロポリタン美術館における「Art of the SAMURAI」展で、甲冑・刀剣・刀装具を中心に、武器・武具・絵巻など国宝三十口を含む二百口以上の超一級品が展示された。アメリカ国内はもとより世界各国から百万人を超える見学者を集め、収録二十万部も完売となった。

そのほか、ポストン美術館の里帰り展、日光二荒山神社の宝刀展など、話題となった多くの展示会の企画・運営に当たった。

今後ますますのご活躍を祈念します。

刀買取委託

e-sword

〒350-1115 埼玉県川越市野田町1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407

刀通販サイト
http://www.e-sword.jp

日本刀 イーソード 検索

mail:info@e-sword.jp

イーソード 誠之 (株) e-sword 平子

古銭 切手・刀剣 売買 評価鑑定

田中勝憲

代表

(株)城南堂古美術店

〒153-0051
東京都目黒区上目黒四-1-110
TEL 03-3771-0167
03-3771-0167
FAX 03-3771-0167

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

イベント・レポート

大阪歴史博物館「埋忠(UMETADA)桃山刀剣界の雄」

画期的展示で一門の多彩な活動を照射

大阪歴史博物館において十月三十一日から十二月十四日まで、特別展「埋忠(UMETADA)桃山刀剣界の雄」が開催されました。埋忠は桃山時代から江戸時代にかけて活躍した一門で、刀剣を鍛え、刀身彫刻を施し、鐔をも製作しました。実質的な流祖と呼ばれる埋忠明寿は、刀剣・刀身彫刻・鐔に長じ、その作品は刀剣界で高く評価されてきました。

埋忠一門は刀剣や鐔の製作にとどまらず、古い名刀の磨上げや折返銘・額銘などの仕立て直し、本阿弥家によって鑑定された極めや所持者の名を刻した金象嵌銘の嵌入作業、あるいは鍔などの金具の

製作や名刀をめぐる幅広い彫金加工、名刀の記録作業などに従事していました。これらの作業は明寿を含む埋忠工房全体で行われていたと考えられています。今回の展示は、従来から高く評価されている埋忠一門の刀剣・刀装具が紹介されると同時に、埋忠一門が手がけた仕立て直しや金具製作、名刀の記録といった活動にも注目し、当時の時代背景からその実像を探るものです。

埋忠一門のこれほど大規模な展示は、昭和四十二年に東京国立博物館において故小笠原信夫先生が特集陳列を企画されて以来、半世紀ぶりとなります。国宝七点、重



重要文化財 短刀 銘山城国西陣住人埋忠明寿 慶長十三年三月日 / 所持埋忠彦八郎重代

名刀と時代刀掛けの意欲的な展示に敬服

山梨県の都留市博物館ミュージアム都留で十一月七日から本年一月二十四日まで、特別展「崇高なる造形 日本刀一名刀と名作から識る武士の美学」が開催された。同館では平成三十年から刀剣・刀装具を展示する特別展を開催しており、前回高評価を得た「魂の造形 日本刀一名刀と名作から学ぶ日本の心」に引き続いて多品・優品が集められた。

刀剣は平安時代から幕末までの代表刀工、刀装具も優品の数々、特に後藤祐乘・金家・信家の各作品を十二点ずつと非常に充実した

展示内容となった。それらが全て所蔵品ではなく借り入れ作品であることは驚きであり、担当学芸員の努力と見識に敬意を評したい。会場を俯瞰してみると、展示品が非常に見やすく、また各作品が格調高く感じられた。これは展示品の質の高さもさることながら、展示に使われている刀掛けが全て時代物の上級品であることに由来すると思われる。通常、鉄器である刀剣と漆芸品である刀掛けを同時に時代物で揃えることは管理の観点から困難であるが、同館の展示ケースは温度・湿度調整を完備



重要美術品 埋忠明寿 蕨文鐔 銘

都留市博物館ミュージアム都留「崇高なる造形 日本刀一名刀と名作から識る武士の美学」

していることにより実現したという。名品の刀掛けは名刀にも増してお目にかかる機会がまれであり、非常に眼福であった。日本美術刀剣保存協会山梨県支部の協力の下、同支部長伊藤満氏と前支部長萩原守氏の講演、スライドレクチャーや、日本刀文化の啓発団体「鉄芸」による現代刀職

の実演、当館学芸員服部浩平氏による日本刀取扱レクチャーなどのイベントも多数行われ、非常に意義深い展覧会となった。今後同館の企画に期待したい。

刀剣古備前正恒(重美)、長船兼光(重美)、来国俊、五郎入道正宗(重美/武蔵正宗)、相州秋広(重美)、志津三郎兼氏、長谷部国重、千子村正(有栖川織仁親王所用)、孫六兼元、堀川国広(重美)、南紀重国(重美)、肥前忠吉、長曾祢虎徹(重美)、源清麿(一徳齋助則、行光・大進房(上杉家伝来) 刀装具 金家・信家二十四点(重美四点)、後藤祐乘十二点、林又七点(重要文化財一点)、横谷宗珉、土屋安親、岩本昆寛、石黒政美、一宮長常、大月光興、荒木東明、松尾月山、海野勝珉ほか (飯田慶雄)

要文化財一五点、重要美術品六点を含む、名刀・鐔・刀剣関連文書など約九〇点が展示され、桃山時代の京都で新しくみずみずしい造形を刀剣・刀装具にもたらした埋忠一門の多彩な活動を振り返ることで、埋忠一門が現在に残した影響の大きさがあらためて評価されています。

埋忠一門の作品では、明寿の刀剣が重要文化財二振、重要美術品二振を含む十数振、刀装具では重要美術品一点を含む五点が展示され、ほかに一門が製作した刀剣や刀装具が数多く展示されました。埋忠一門の刀剣の作品には、ほとんどのものに濃密な龍図や不動明王図の彫物が施されており、そ

れが表裏に及びます。いくつかの作品は独立の展示ケースで、表裏を観察することが可能となっていました。ライティングも地鉄や刃文と同時に、彫物が見やすいように調節されているようでした。刀装具も独立ケースや裏面に鏡が設置されて、両面を観察することができ、画期的なものとなりました。埋忠刀譜に所載するものは、相州物の正宗・貞宗・江義弘・則重・志津らをはじめとする享保名物を含む数多くの名刀が、その写しとともに展示されていました。

また埋忠一門により製作された鐔は、刀とともに、あるいは数個をまとめて独立ケースに展示されていました。埋忠鐔の薄手な肉置き、金色、縦横の鑢目、形状の柔らかさといった特徴や、台座、底部の針銘、棟内側に穿たれた丸鑿まで鏡や拡大鏡の設置が駆使されて、本来であれば手に取らなければ確認することができないような箇所までも観察することが可能なように、さまざまな工夫が施された展示方法となっており、埋忠作

品を余すことなく見せるといっ担当の方の熱意が感じられました。大阪会場限定で展示されたのは左記の十一振で、中には昭和期に展示されて以来の披露となる名刀もあって、話題となりました。太刀銘国行(来)(号明石国行)(国宝) 太刀銘国綱 太刀銘光忠(重美) 太刀銘備前長船住景光(重文) 太刀銘国行(当麻)(国宝) 太刀銘大和則長(重美) 刀磨上銘加称ミツノ浮田左京介 すり上つねこれ

刀銘和泉守兼定作/大永二年二月吉日源親忠 太刀銘日州古屋之住国広山伏之時作之天正十二年彼岸/太刀主日向国住飯田新七良藤原祐安(号山伏国広)(重文) 刀銘越後守藤原国備 刀銘阿波守藤原在吉 なお、本展は現在、会場を東京・両国の刀剣博物館に移し、二月二十一日まで開催されています。(買貨亮典)



名工・名品を集めた刀装具



刀は全て時代物の刀掛けに展示された

銀座日本刀 MUSEUM 泰文堂が 東京美術倶楽部で記念セールを開催

銀座日本刀 MUSEUM 泰文堂の「創立四十周年特別記念セール」が十一月十四・十五日の二日間、東京美術倶楽部で開催されました。受付で記帳、検温、手袋・マスク着用の確認を受けて入場すると、そこは上質感漂う広い会場。名刀を中心に二百点が陳列され、さながら美術館を訪れたかのよう

な落ち着いた雰囲気になります。そこで来場客はおのおの名刀を手に取り、説明を受けていました。同社代表の川島貴敏さんは「今年には新型コロナウイルスの感染拡大で、大刀剣市が中止になりました。愛刀家の欲求が募るのを感じ

る中、十分な広さを確保するため、創立四十周年の特別記念セールを東京美術倶楽部で開催することに



広い会場を確保して開催された記念セール

(松本義行)

例年の清磨会に代えて有志が供養と墓参に集う

前日まで寒さが感じられる冬らしい日が続いていましたが、暖かな日差しに恵まれた十一月十四日、江戸三作の一人に数えられ、四谷正宗とうたわれた山浦清磨の供養が行われました。この日は清磨の命日に当たり、毎年「清磨会」として四谷・宗福寺において開催されます。今年も新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、当寺では法要は執り行っているものの、直会や会食を伴う会合は密になるため、遠慮願っていること、誠に残念ですが例年の清磨会は

当日は東京都や近県を中心とした有志十三名が参加され、午前十時から本堂において法要が営まれ、その後、墓前において読経とお参りが行われました。美しい季節の花に飾られた墓石に、清磨の郷里である信州と、縁の深かった秋のお酒を皆さんが思いを込めながら順番に注いでいました。次回には新型コロナウイルスも収束し、第七十四回清磨会が従来のように開催され、多くの皆さまが参加され、清磨をはじめとする多くの名刀に再び会することを切に願う次第です。(買貨亮典)



清磨の墓に酒を捧げる柴田家主

清磨会は

刀 剣 界

海外通信

未曾有の流通停滞をもたらしたコロナ禍

マイク山崎(米国在住)



二〇二〇年、世界的に蔓延する新型コロナウイルス感染症が、米国の日本刀市場にまで影響を及ぼしていることは、おそらく誰もが信じないだろう。

この二十年ほど、趣味としての日本刀市場は世界中に広がってきた。それを可能にしたのがインターネットの存在である。長年、日米間で築き上げられてきた新たな関係性とともに、日本刀市場の拡大は進んできた。たとえば、二〇一九年に開催された「大刀剣市」の後、われわれは今年もこの素晴

らしいイベントへの参加を予定していた。ここ数年の間に、同イベントはわれわれの多くにとって伝統になりつつあった。米国でも多くの刀剣イベントが開催され、コレクターやディーラーが常に楽しみにしていたものである。

ところが、今年はコロナウイルス感染拡大のために、多くの美術品やコレクター向けイベントもすべて中止となってしまった。これは米国内史上初めてのことだ。米国の刀剣市場にとって大きな損失であり、

国際郵便物の取り扱いが一時中止され、日本から米国へのEMSによる刀剣輸出が認められなくなったのである。修復のため、あるいは鑑定書を取得する審査のために日本へ輸送した刀剣の返送時期は不明になった。この状況については情報が広まると、米国のコレクターは日本からの刀剣購入を二時的に中止せざるを得なくなった。

現段階では、ワクチン普及のニュースをきっかけに旅行や刀剣イベントが再開され、日本の郵便事情も解決することを願うばかりである。インターネットがなければ、二〇二〇年中に日本刀市場は完全に消失する事態になっていたかもしれない。

皆さまが今号を手にとられるのは、松の内も過ぎ、お正月気分も抜けた頃だろう。それにしても、わが家のお正月といえは、気分もあるのかなのか……。夫が職員という仕事柄、大晦日も元旦も他人事である。大晦日に出勤し、元旦の朝に帰宅した夫とお雑煮の前に、「これって

年越し蕎麦やんなあ」などと言いつつするのが常である。などと書き連ねていると、蕎麦が食べたくなって堪らなくなった。居ても立っても居られず、吉野山の矢的庵さんにお邪魔してきた。私は、戸隠で研鑽を積んだ主人の味が大好きだ。だから、桜が咲こうが散ろうが、吉野山に通っている。ご主人の四方山話のうち、年越し蕎麦についてお話を伺った。

「男はつらいよ」は、昭和の良き時代に正月映画として毎年新作が上映されていた。今日は映画の中の風景を懐かしみながら、フーテンの寅さん気分です話したい。

子供のころ、学校の暖房はコークスか石炭が燃料のダルマストーブだった。給食も今は違ってはいた。ガッチャンプレスで作られたアルミの食器に、箸でなく先端が三つに割れたスプーン。フーテンの役目も果たす優れものだったが、マナーの面からは悪評だった。おかずには鯨の竜田揚げも出た。今では高級食材の鯨が、給食で振る舞われていたのだ。

牛乳は必ず出た。その数年前までは脱脂粉乳だったそうである。主食はコッパンというチョイ歯ごたえがあるパンだった。時折、揚げパンになって砂糖がまぶされて出てきたりした。生徒はそんな給食が楽しかった。

電車はレトロ感が満載で、床は油で防汚処理された木製だった。切符を買うと、駅員がハサミで切り込みを入れた。ここからは若者たちに、オジサン

が、次回に向けて師の作刀は始まっています。魂を打つ作品作りには余念がありません。(月山貞伸)

観照一筆
工芸の展示販売を伴う個展は通常作家に負担が大きい。一定の広いスペースを埋める作品点数をバリエーションを持たせて制作することとしようか、芸能に携わる著名人の方々の姿も目にしました。会期中に何度もご来場いただいたお客さまからは最終日に丁寧な御礼のお手紙を頂き、同展を通して刀剣への関心の高まりをあらためて感じました。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

イベント・レポート

日本橋高島屋「刀匠月山貞利展」

十回目の展観を迎え各伝に円熟の境地

去る十月二十八日から十一月三日まで、日本橋高島屋S.C本館六階美術画廊において「刀匠月山貞利展」が開催されました。先代月山貞一師とともに平成二年から三年ごとに開催していただいた高島屋での展覧会も、今回で十回目を迎えます。当初は五月の開催予定でしたが、コロナ禍で延期となる一方、さらなる作品製作や準備に注力できました。

多少の心配の中、感染対策に配慮していただいた会場とスタッフの協力で月山貞利師も全日程で在廊し、初日から多くのお客さまをお迎えしました。

会場内には先祖伝来綾杉や相州・山城・大和といった各伝の作品に、珠追い龍や梅龍など濃厚な彫物が施された太刀・刀八点、脇指七点、短刀七点の他小物に加え、月山貞伸の作品など近年の最近作三十五点が一堂に展示されました。会場口ウインドーに展示された

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。



「月山貞利展」会場風景(撮影/トム岸田)

り、落胆でもあった。われわれの市場でさえも、このパンデミックの影響を受けるといふ事実を初めて実感したのだ。

次に直面したのは、渡航制限による問題だった。これにより、日本の刀剣商との取引のため、あるいはコレクターがイベントに参加したり、刀剣店や博物館を訪れたりするために日本へ渡航することが困難になった。

その中で、インターネットショッピングが米国のコレクターやディーラーの趣味・嗜好品のニーズを満たす手段となった。だが、ここでも衝撃的なことが起きた。国際線のフライトが制限あるいは減便となったことから、日本郵便による

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

折々

お正月の事

石井 理子

筆者は奈良県在住



蕎麦にもお国柄があって...

蕎麦にもお国柄があって... 関西人の私は、井から湯気の立つかけ

蕎麦を思い浮かべる。しかし、地方によっての違いはあるものの、東日本ではざる蕎麦のような冷たい年越し蕎麦があるということだ。驚きながらも「美味しいし、両方とも食べてもええねんけど」などと考えていた。

新春エッセー

還暦を迎えて思うこと

生野 正

年が明けて、還暦を迎えるのだが、これにはどういう意味があるのだろうか？

昔話を聞いてほしい。

「男はつらいよ」は、昭和の良き時代に正月映画として毎年新作が上映されていた。今日は映画の中の風景を懐かしみながら、フーテンの寅さん気分です話したい。

還暦祝いには奈良時代には、貴族階級の間だけ行われていたという。干支が一巡し「生まれたときと同じ暦に還る(六十年前の赤ちゃんと還る)」という意味で還暦と呼ぶお祝いになったとか。

赤い羽織を着る習慣は、赤い色に魔除けの力があるとされ、赤ちゃんを病気や悪いものから守るために着せていた習わしが、還暦を迎えた人にも転用されて「これからは元気で長生きしてね」という願いが込められ、一般化したようである。ありがたいことである。

同年の友を見ていて気付いたこと。変な人が多い。興奮しやすい仲間が多い。牛という動物は赤い色に興奮を覚え、突進する習性がある。普段はんびりとした草食動物なんだけど、いったんその気になると始末が悪い。自分が思うことに妙に頑固であったり、赤いパンツが大好きな奴もいる。しかし、六十歳のオジサンである。

牛乳は必ず出た。その数年前までは脱脂粉乳だったそうである。主食はコッパンというチョイ歯ごたえがあるパンだった。時折、揚げパンになって砂糖がまぶされて出てきたりした。生徒はそんな給食が楽しかった。

電車はレトロ感が満載で、床は油で防汚処理された木製だった。切符を買うと、駅員がハサミで切り込みを入れた。ここからは若者たちに、オジサン

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

「オジサン」は懐かしい……。今は我慢の時です。直面する難局を一つ一つ乗り越えましょう。年男の私は、大好きな業界と、敬愛する組合員の皆さまの今年一年が、実りある年にありますように願っています。

提論 疑問

「兼常と号する者 最も嘉なり」の真意

伊藤三平(刀剣史研究家)

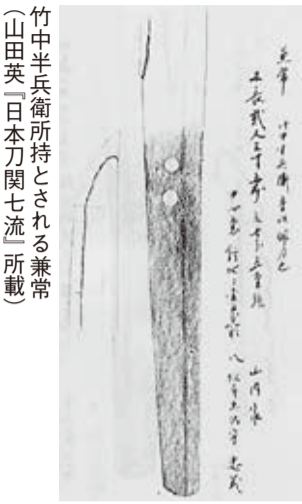
美濃鍛冶「兼常」の評価を裏付ける逸話として、中国の明時代の書物『武備志』(茅元儀著、一六二二年刊)に「兼常と号する者最も嘉なり」と記されていることは『日本刀工辞典 古刀篇』(藤代義雄著、『日本刀大百科事典』(福永酔剣著)の「兼常」の項で紹介されている。

今回、この言葉の真意が刀剣界で認識されている意味とは違っているところがあるとの解釈を聞き、刀剣商など斯界のプロの方が購読されている『刀剣界』で発表してお知恵を拝借したい。

経緯を簡単に述べると、昨年の十月に発刊された『週刊日本刀』72号に「中国大陸と日本刀輸出―工業立国・日本の礎となった美と技術―」の小論を発表したが、その調査過程のことである。

小論では、輸出刀剣を製造した鍛冶集団にも言及し、その中で前記の『武備志』の記述を紹介した。美濃鍛冶の作刀も美濃から近江に運ばれ、水運で琵琶湖→瀬田川→宇治川→伏見の巨椋池→淀川→堺のルートで輸出されたと考えるのは無理がなく。

『週刊日本刀』の編集部から『武備志』のどこに出ているのかと問い合わせがある。小論に挿入する図版に『武備志』の該当ページを入れることを検討されたのだからと推測される。



竹中半兵衛所持とされる兼常(山田英「日本刀関七流」所載)

『武備志』は全二百四十巻もあり、(どうしようかと思っただが、グーグルの検索で探すと、中国語の「中国哲学書電子化計画」というサイトの一節に『武備志』の全文が掲載されている。その「武備志 一百一十九」と「同 20」に兼常に言及した箇所と思われるものを見つけた。ネット社会のおかげである。

この該当サイトは <https://text.org/wiki/p111-19&chapter=537022&search=兼常&BC=兼常&MB=兼常> である。

「兼常」の当該箇所の傍線は筆者。刀大小長短不同立名亦異每入有一長刀一短刀一佩刀其刀上又揮一小刀以便墨用又一刺刀長 以尺者謂之解手刀長尺徐者謂之忌拔亦刺刀之圍此一者乃圍身必用者也其六而長柄者乃槐導折用可以殺人圍之先導其以皮條疆刀輔佩之於息載說之於手乃圍後所圍謂之天制 又有小裁紙設接刀出長門號兼常者嘉嘉又有作差圍賀禮不拘大小名雖為刀其實無用 上等日上庫刀山城君盛時盡取日本各品名產封鎖庫中不限歲月竭其工巧謂之上庫刀其間號寧久者墓簫世代祖傳以此川上 灰等日備前刀以有血酒為巧刀上或鑿龍或鑿劍或鑿八幡大薩春日大明神天照皇大神宮皆共形蓋在外為美觀者

「兼常」の「前」にある「出長門」は誤記されておらず、国号の長門(山口県)のことかとも思うが、わからぬ。美濃の兼常は利刀であり、こんな評は当てはまらないので、『日本刀銘鑑』(石井昌国編著)を調べると、永禄頃の出雲に

までとして「今回、『武備志』の原文に当たると巻一百二に「號兼常者嘉嘉」の一節があることを突き止めた。この辺りの文章は難読の漢文で私には解読できないが、文中には長門、山城、備前などの国らしい単語が見えるから、これらの国の鍛冶の作品もあったのであるか」と取りまとめて発表した。

その後、中国人に人脈があるご夫妻を思い出し、奥さまを通して何人かの学識のある中国人に確認していただいたが、中国人でもお手上げの古文で難航した。しばらくしてからご夫妻を通して、本場に正確な訳になっているかは自信がないが、次のように解読できると言う方からの連絡を受けた。

「日本刀には大小長短色々あり、長い刀には佩刀するのと腰刀があります。腰刀は雑用に使われる。長い柄の刀は武將が先頭に立って戦い、太刀の重みも手に巻いたり、肩にかけるようにしている。また、紙を切るための小刀は兼常がお祝い用やお礼品としてよく使われているが、実用にはならない。上等刀は日本国繁栄の時には山城の北の丸公園に開館した同館は、東京国立近代美術館の分館として、陶磁・漆芸・染織・金工などの伝統工芸からグラフィックデザインに至るまで、日本の近現代の工芸・デザイン作品を専門としてきた。

同館では今後、所蔵している全国各地の工芸作品約一九〇〇点のほか、特別展や共催展として国内外の工芸・デザイン作品を展示していく。名譽館長に元サッカー日本代表の中田英寿さんを迎え、金沢を拠点に日本の工芸の国際発信力強化を図る。

建物には、明治時代に建てられた国登録有形文化財「旧陸軍第九師司令部庁舎」と「旧陸軍金沢偕行社」を移築して利用。復元された両翼部分は鉄筋コンクリート造りにしたこと、作品展示が可能

NEWS & TOPICS

金沢に国立工芸館が移転開館

兼常がいることは記されているが、長門の兼常はない。刀剣界のために『武備志』の該箇所の正確な翻訳があらためて必要と考えます。刀剣店のお客さまにも中国の方が多くなっているとも聞いております。お客さまの中国人や、お知り合いの日本の学者にも確認していただければ幸いです。

なお、兼常については、隣国の評価を待つまでもなく、日本の武人や鑑定家も高く評価している。『日本刀工辞典 古刀篇』『日本刀の掟と特徴』(本阿弥光透著)でも高評価が記されているが、ここでは戦前の中央刀剣会審査員山岡重厚氏の『日本刀伝習録』(氏の

評価は備前伝・美濃伝重視に偏っているが)で実見した名刀の一振として兼常にあえて一章を割いている内容を紹介したい。その兼常とは、豊臣秀吉の知恵袋として名高い竹中半兵衛重治が所持し、毛利吉成(秀吉家臣で森吉成とも名乗る)に贈られ、後に山内忠義(土佐藩二代藩主)に渡り山内家重代として伝わったものである。同書では「美濃の両兼と称せられ天下を風靡したる関の兼定、兼元にも此竹中半兵衛の兼常の壘を摩する(技量がほとんど同じ)刀は未だ見たることなく今日迄経眼せる美濃刀中の第一位の刀と信じる感のするものである」と激賞している。

私が出会った珍品・逸品

網取譲一

不可解だが、かわいい

古来、空想上の動物たち、未確認動物たちは畏怖の念を持って語られてきたであろうが、一体いつからだろうか、それらが少年・少女たちを恐怖に陥れる存在ではなくなり、友達やアイドルと化してしまっただけは……

松本理事・持田理事と行く新橋駅前地下の「怪獣酒場」は、私たちが子供のころ好きだった円谷プロの映像に出てきた怪獣たちが、運が良ければ隣に座りお酌してくれるらしい。

同プロの作った怪獣の中でも、古い屋敷に住み、華族制度廃止後もその地位を捨てられず愛娘とともに毒蜘蛛と化してしまう「蜘蛛男爵」は、ホラー風に作られ子供をためるのに精を出す揚げ句、がめつくなった少年はカネゴンという怪獣になってしまふ。高度成長期に人の心を忘れつつあった者たちへの警鐘ではなかったか。

怪獣の登場にときめく松本理事はワーカホリックだし、楽しんで稼ぐ持田理事はもはや金の亡者だ。二人ともよくカネゴンに変身しないものである。つい最近では、Nintendo へのスマホのGPSと

地図機能アプリを利用したゲームは社会現象ともなった。それもそのはず、捕獲されるモンスターは黒目勝ちで本当に愛らしい。さて、ここに紹介する目貫は表が龍であろうか。裏に至っては初めて目にする未確認動物が表現されている。ネコ科の動物のようだが、背中に羽を持つ。江戸期の金工作家がポケットモンスターを予見したわけではなさそうだが、威厳を持つ前の幼体にも見える。

赤銅の起伏に富んだ彫塑で、目貫としては大型である。龍の鱗は一枚一枚丁寧に彫られ、よく観察したと思わせるのはもう片方の未確認動物で、猫に万歳をさせモテルにしたか、機敏に動くための柔らかな皮膚が下方にたるみを持ち、脂肪なので、このへんはよく見られる。古い蒐集家を持っていたが、他の同業者との付き合いもあるだろうに動物好きの私に向けてくれたもので、銘はない。よって自分の愛玩用につき、鑑定書は取得するつもりはなかった。

しかし、このコラムに載せるに当たって、ふと不安が頭をもたげ出す。铸件の類であった場合、記事にならないではないか。なにせ透鑢などの仕入れで現代製にはまっぴり御用は度々だ。そこで、ベテラン組合員と目の鋭い中堅組合員にそれぞれこの作品をお見せしたところ、共にお墨付きを頂いた。特に中堅の組合員からは、年代もあると評された。次は、拙稿を読んだ皆さんに教えていただきたい。この二頭の動物がどんな面題で結ばれているのかを。



金沢に移転開館した国立工芸館



表目貫41mm、裏目貫40mm

刀 剣 界

質問箱

第十回・刀剣ブーム

回答者 ● 冥賀 吉也



「貴、市場で重刀の近江大塚忠

広が千三百万円で取引できたんだよね、いい時代だったなァ」と大先輩の小澤さんがよく話されま

すが、その話は本当ですか？ そのころの話詳しく教えてください。また、高値になった理由なども教えてください。という質問が寄せられました。

おそろく、今から五十年近く前の昭和四十八、九年ごろの話かと思

います。そのころはまだ刀剣柴田で修業中であり、交換市場には出入りしていませんので、相場についてはわかりません。が、確かに当時の刀剣業界は好景気に沸き、展示即売会で特別貴重刀剣の角津田の刀が八百万円だった

り、無銘の重要刀剣が七、八百万円で売買されたことを覚えています。二十五、六歳で給与が六万円前後だったので、刀剣はかなりの高値でした。

昭和四十二年ごろから刀剣の価格は徐々に上がり始め、四十九年をピークに毎年上がり続けたので

すが、翌年ごろからゆっくると長い坂を下り始めたのでした。小澤さんの話は刀剣ブームの最高潮のころの実話だったと思います。



昭和42年「日本名刀展」(於銀座松屋)

いて考えてみたいと思います。(要因①)そのころ、わが国は高度成長期だった

昭和三十九年ごろから四十九年ごろにかけて、日本は好景気の中をまっしぐらに突き進む良き時代でした。私が高校二年生の三十九年に東京オリンピックが開催さ

れ、同年には東海道新幹線が開通、入社した四十五年三月からは大阪万博がありました。特に四十年から四十五年は「い

ざなぎ景気」と言われる高度経済成長期の真っただ中であり、日本中が好景気に沸いていました。さらに四十七年には間もなく総理大臣に就任する田中角栄氏から日本列島改造論が打ち出され、拍車がかかりました。

土地ブームが全国に沸き起り、地価は急騰していきました。土地を売却して自宅を立派に建て替え、余るお金で車や美術品を買い求める例が珍しくありませんで

した。デパートではそうしたニーズに応えて絵画や刀剣の展示即売会が盛んに行われたのです。私の記憶では、四十五〜五十年ごろの刀剣柴田において、北は札幌・青森・秋田・仙台・新潟・富山・金沢、南は姫路・新居浜・今治など、東京では東京大丸・八王子大丸、三越日本橋本店・同銀座店・同新宿店等々で刀剣展示即売会を恒常的に開催していたもの

です。大丸や三越の各店には常設の刀剣コーナーを出店して、私は四十八〜五十五年、東京大丸五階の刀剣コーナーに勤務していました。

パートの最優先課題は何と言っても売り上げであり、そこで長年続けられたことは期待される営業成績が持続できたことを物語っています。

そのほかのデパート、例えば高島屋・松坂屋・松屋・そごうなども、他の刀剣商の方々によって頻りに展示即売会が開催されてい

ました。しかも全国各地で開催されていたというところは、いかに刀剣に人気があり、売り上げも好調であったかを物語っています。しかし、世の中が好景気なだけで刀剣が大ブームになったのでは

ありません。(要因②)刀剣諸団体による愛刀家の育成、刀剣普及活動

当時は左記の刀剣団体があり、それぞれが特徴のある活動をされています。

- ①財団法人日本美術刀剣保存協会(以下「日刀保」)
- ②日本刀剣保存会
- ③日本春慶刀剣会
- ④刀苑社
- ⑤刀剣連合会
- ⑥中央刀剣会 ほか

各団体は会員を擁し支部があり(例えば日刀保では会員一万五千人、支部六十前後)、毎月あるいは隔月のペースで定例鑑賞会があり、全国大会も開催されています。日刀保の本部鑑賞会には常に

百名ほどの会員が集い、鑑賞刀約十振、鑑定刀五振を手に取り、熱心に勉強したものです。

私が学生の当時には、講師を務められる本間薫山先生・佐藤寒山先生・本阿弥日洲先生・沼田謙次先生等の大先生方から貴重なお話を伺うことができ、大変勉強になった思い出があります。

昭和四十四年の日刀保全国大会は赤坂プリンスホテルで開催され、大盛況でした。当時、私は國學院大学の三年生で日本刀研究会に所属しており、部員四十名ほど

で大会の警備のお手伝いをさせていただきました。全国の会員約千名の参加で会場は超満員になり、名刀の鑑賞のためにできた長蛇の列を整理・誘導するのに汗だくになった思い出があります。

そのころ他団体の定例鑑賞会とも言え、日本刀保存会は小石川後楽園内にある涵徳亭で、日本春慶刀剣会は湯島天神で、刀苑社は新大久保にある稲荷神社で、本阿弥博士先生の日本刀研究会は上野の梅川亭で、それぞれ開催されました。これらの会に毎回通い、ご指導いただいたことを懐かしく思い出します。

このように、鑑賞・鑑定会を通じて指導する各団体には古くからの愛刀家はもちろん、初心者、業界関係者などさまざまな方々が参加し、熱心に勉強したものでした。(要因③)日本刀の啓発に貢献したデパートの名刀展

一般の方々に対する日本刀の普及啓発に、有名デパートにおける名刀展が果たした役割は看過することができません。昭和四十二、四十七年、デパートの催事会場で

は城和泉守正宗や九鬼正宗、庵ノ正宗など代表作八振が、虎徹では重文を含む六振が堂々並びました。まさに空前絶後の大名刀展でした。

四十五年八月二十八日〜九月二日に大丸東京店で開催されたのは、日刀保・毎日新聞社共催の「英米からの里帰り」と国内の名作」と題された名刀展でした。この時は御物・国宝・重文を含む百余点が

展示されました。御物の名物鬼丸国綱、名物若狭正宗、国宝の会津新藤五・日向正宗・徳善院貞宗、ほかには久能山東照宮の真恒の太刀など、まさに圧巻でした。刀装では、京都・鞍馬寺所蔵の坂上田村麻呂佩剣と

される重文の黒漆剣が印象に残っています。この折、米国のコンプトン博士が照国神社に寄贈した国宝の国宗や、元英極東軍司令官・元帥サー・フランシス・フェスチング氏所蔵の二振の清磨(ただし

正行銘)も話題を呼びました。同様の名刀展はこの時期、東急百貨店・新宿伊勢丹・三越本店などでも開催されました。後年「なぜ日本刀が好きになったのか」という質問に対して、「デパートで名刀を拝見したのがきっかけ」と答える方が驚くほど多く見ましたが、デパートでの名刀展は

どれほど多くの方たちに刀剣の魅力を伝えたか計り知れません。名刀展の開催に尽力された日刀保・各新聞社・百貨店、出展に協力された宮内庁・文化庁、全国の社寺、並びに愛刀家の皆さまに深く敬意を表したいと思います。

昭和四十八年、熊本市の大洋デパートで発生した火災を契機に法改正が行われ、現在ではデパートの催事場などの国宝・重文等の展示はできなくなっています。(要因④)信頼性と付加価値を高めた認定書・鑑定書

ブームの一翼を担ったと考えます。例えば日刀保では現在、刀剣と刀装具類の審査会は別々にそれぞれ年四回行われています。審査はきわめて慎重に行われ、少しでも疑問の残る作は保留という形で向後の研究に待つこととなります。

昭和四十五年前後には、毎週末どこかの地方支部で審査会が行われていたものです。審査物件数は五〇〇〜一〇〇〇と多岐にわたる、審査員は正副二名のみで、支部の方々も押形や調書の記録を手伝いするという態勢でした。多少の見落としがあったことは否めません。

しかし、全国各地で審査会が盛んに行われたことで、地方での日本刀の普及や活性化、愛刀家の育成に貢献したことは紛れもない事実です。(要因⑤)日本刀の大衆化に寄与した出版とテレビ

昭和三十年代後半から四十年代後半にかけて、日本刀に関する書籍が盛んに出版されたことも、刀剣界の発展に大きく寄与しました。代表的なものが『日本刀大鑑』全七巻、『新版日本刀講座』全八巻、『日本刀全集』全九巻などが挙げられます。これらはいずれも本間・佐藤両先生を中心に、日刀保の関係者が執筆・編集したのですが、個人の執筆による単行本も数多くありました。

私の師匠、柴田光男先生は『日本名刀』『趣味の日本刀』『十剣』『日本刀入門』『新々刀入門』など数十冊を出版しています。柴田先生はテレビ出演とも相まって、日本刀の「大衆化」を自ら牽引された方だと思えます。

「日本刀は難しい」とはしばしば聞かれますが、興味を持ち始め



昭和45年「英米からの里帰りと国内の名作」(於大丸東京展)

た方が知識を求めて手にする好個のツールが、入門書でした。次のステップに至ると、個別の研究書や名刀集も用意されているといった状況で、あのころの刀剣業界には誠に充実したシステムがありました。

そのほか、日本刀ブームを引き起こした要因はさまざま考えられますが、日本刀の価格が異常なまでに高騰した最大の理由は、年々価格が上がり続けたことにあると

考えられます。土地や株式・絵画・貴金属に固有のものと思われていたのが、「買えば何でも儲かる」という社会現象が刀にも起こって

しまったのです。しかし、前述のように昭和四十九年の第一次オイルショック以降、日本刀の価格はゆっくると下り坂を進み、十数年後の平成バブル期に再び上昇しますが、以前の最高潮期には及びませんでした。

明治以降、刀剣界はさまざまな困難を乗り越えてきました。明治初年の廃刀令、大正十二年の関東大震災、昭和二十年のGHQによる武器提出命令…。幸い先人たちの尽力により、登録制度の下に所持できることとなり、サンフランシスコ平和条約以降には現代刀も復活できました。日本刀はわが国の宝であり、世界が認める鉄の芸術品です。コロナ禍の現在、刀剣業界は非常に厳しい状況にありますが、若い人たちが中心となって知恵と努力を出し合い、正しくより良い刀剣業界とされることを願っています。

催事情報

■坂城町鉄の展示館

〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城6313-2
☎0268-82-1128 <https://www.tetsu-museum.info/>

軍刀とサーベル展

人間国宝の故宮入行平が製作した作品をはじめとする軍用刀剣、世界各国の軍隊サーベル、江戸期の絵画資料を展示します。

会期：11月28日(土)～2月14日(日)



■備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767
<http://www.city.setouchi.lg.jp/token/>

日本刀ができるまで—匠たちの共演—

日本刀は、平安時代から現代まで続く約1200年にわたる長い歴史の中で、全国各地で製作されてきました。中でも長船地域は、数多くの優れた日本刀が生み出された名刀の産地として知られます。この産地を支え続けたのが、日本刀製作を行う職人(刀職)たちです。

日本刀製作を行う職人という、「刀鍛冶」が全てを作り上げると想像しがちですが、「研師」や「白銀師」「金工師」「鞆師」「塗師」など多くの職人が関わっています。作業内容も、刀身研磨をはじめ、鐔の作成、鐔・目貫など刀装金具の製作、鞆・拵下地の製作、漆塗り、柄製作など多岐にわたりますが、これらの作業は職人が所有している工房で行っていることから、間近に見る機会はなかなかありません。

今回の展示は、玉鋼から作られる刀身と、鐔や鞆などの刀装具を組み合わせることによって出来上がる外装の製作工程にスポットを当て、職人がどの工程を担当し、どんな作業をしているのかを知っていただきます。併せて、備前おさふね刀剣の里の活動に協力していただいている職人の紹介とともに、職人を目指したきっかけをはじめ、将来の夢や作品作りへの熱意など、普段語ることのない職人の生の声にも注目してみてください。

会期：10月23日(金)～3月31日(水)

■創造広場「アクトランド」龍馬歴史館

〒781-5233 高知県香南市野市町大谷928-1 ☎0887-56-1501
<http://actland.jp/museum/ryouma.html>

刀剣イズム

本展では、日本の刀剣が歴史とともにどのような変化をしてきたのかを明らかにし、刀剣とはどのようなものであるかを紹介します。

アクトランドが所蔵する刀や槍など13本をずらっと展示。模造刀に触れられる体験や、展示室でスマホをかざすと動く解説がご覧いただけるAR体験など、刀好きの方はもちろん、刀剣初心者でもわかりやすく楽しめる展覧会です。

〈主要作品〉脇指 銘 陸奥守吉行／脇指 銘 吉国・上野守吉国／脇指 銘 和泉守兼重／打刀 銘 兼元／打刀 銘 武州藤原順重／脇指 銘 陸奥大掾三善長道

会期：11月1日(日)～3月28日(日)



■柏原美術館

〒741-0081 山口県岩国市横山2-10-27 ☎0827-41-0506
<http://www.iwakuni-art-museum.org/>

新春特別展「真剣勝負」

会期：12月21日(月)～2月25日(木)



■岐阜県図書館

〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1 ☎
http://www.gifu-kenpaku.jp/kikakuten/akabanetou_zenpen/

博物館図書館連携企画展「千磨百錬—よみがえる赤羽刀」

「赤羽刀」とは、第二次世界大戦後、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)によって接收された刀剣のうち、元所有者不明のため博物館等に無償譲与された日本刀のことです。東京赤羽のアメリカ軍第8軍兵器補給廠に保管されていたことからこう呼ばれています。平成11年に国を通じて譲与された3,209点のうち岐阜県博物館は168点を受領し、錆びつき、鞆を失った状態から順次、研磨・外装の整備をしてきました。この度、令和元年度までに研磨が終了した48点を2回に分けて展示します。

会期：1月19日(火)～3月14日(日)



会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。現下の状況で入場制限もありますので、ホームページをご覧ください。

■鎌倉歴史文化交流館

〒248-0011 神奈川県鎌倉市扇ガ谷1-5-1 ☎0467-73-8501
<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/rekibun/koryukan.html>

企画展「戦国時代の鎌倉—もとの都に成してこそみめ—」

鎌倉は、源頼朝が幕府を開いて以降、一大都市として栄えます。室町幕府が開かれた後も、東国を管轄する鎌倉府が置かれ、政治の中心地としての役割を果たしました。しかし、鎌倉府が滅亡すると鎌倉は都市としての役割を失い荒廃していきます。そこに現れたのが、伊勢宗瑞(北条早雲)です。宗瑞は、伊豆韮山城・小田原城を拠点に関東へ版図を伸ばし、永正9年(1512)に玉縄城を築きます。玉縄城は、北条氏の一族が代々城主となり、彼らは玉縄北条氏と呼ばれ鎌倉周辺を治めました。

宗瑞の跡を継いだ後北条氏2代当主の北条氏綱は、鶴岡八幡宮の再建を行い、積極的に鎌倉の寺社を保護していきます。再建には、鎌倉にいた多くの職人たちが携わっており、彼らは後北条氏の庇護を受け、後々まで鎌倉を拠点に活動していくことになります。

本展では、鎌倉府の滅亡以降荒廃した鎌倉において、後北条氏と鎌倉の人々が現代につながる鎌倉の基礎を築いていった様子を、玉縄城跡の出土品や古文書を通してお伝えします。

会期：12月5日(土)～2月13日(土)



■春日大社国宝殿

〒630-8212 奈良市春日野町160 ☎0742-22-7788
<https://www.kasugataisha.or.jp/museum/>

冬季特別展「日本の名刀と武具—刀剣の歴史と病魔退散の祈り—」

春日大社が所蔵する国宝・重要文化財の名刀をもとに日本刀剣史をたどりつつ、新型コロナウイルスの収束が見通せない昨今、『春日権現験記』などの資料とともに、古の人々が刀剣や弓矢などの武具に込めた病魔退散の祈りを探ります。

会期：前期12月26日(土)～2月7日(日)

後期2月9日(火)～4月4日(日)



2021年1月吉日
公益財団法人日本美術刀剣保存協会
全日本刀匠会

「令和の名刀・名工展」の開催について

公益財団法人日本美術刀剣保存協会と全日本刀匠会は、2022年(令和4年)夏頃に共同で下記の通り展覧会を開催することとなりましたので、お知らせいたします。

記

1. 展覧会名称 令和の名刀・名工展
2. 開催趣旨
刀職者たちは、時代環境の変遷によりその行き先を見失いかけたが、人々は武器ではなく美術刀剣という在り方にその未来を見出した。日本刀は千年余の歴史があり、工芸史上重要な地位を占めるものである。そしてこの現代において、長年の伝統を継承しつつ、古の模倣や従来の踏襲に終わらない一層の技術錬磨の上に、新しい時代とともにある日本刀職方技術の姿を築き上げることが、本展覧会に課せられた使命である。本展覧会は、公募による展覧会として厳正な基準に基づく評価を通し、作刀技術・研磨技術・外装技術の健全な発展と人材育成に寄与することを願うものである。
3. 主催 公益財団法人日本美術刀剣保存協会・全日本刀匠会
4. 会期 2022年(令和4年)8月上旬から11月下旬(予定)
5. 会場 東京会場(刀剣博物館)/岡山会場(未定)
6. 募集部門 作刀・刀身彫・彫金・研磨・白鞆・刀装・柄前・白銀の8部門(予定)
7. 出品作品 2020年(令和2年)1月1日以降に自己が製作・工作したもの(公募展に未発表かつ巡回する全ての会場・会期に展示可能なものに限る)
8. 出品締切 2022年(令和4年)5月上旬(予定)
9. 出品料 10,000円
10. 賞の種類 大賞・準大賞その他を予定
11. その他 オープン参加(現代刀職展無鑑査出品・お守り刀展覧会特待者出品はありません)

なお、本展開催年は、「現代刀職展」及び「お守り刀展覧会」は開催いたしません。その他、本展詳細は決定次第、順次お知らせいたします。
〈お問い合わせ先〉

〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9 公益財団法人日本美術刀剣保存協会
☎03-6284-1000(平日9:30～17:30)

〒700-0904 岡山県岡山市北区柳町2-1-1 全日本刀匠会
☎086-227-5721(平日10:00～18:00)

刀 劍 界

令和3年1月15日発行(隔月刊)

令和3年(2021)

謹 賀 新 年

本年もよろしくお願ひ申し上げます

掲載は申し込み順です

<p>株式会社 刀劍柴田</p> <p>柴田 光隆</p> <p>〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-8 TEL 03-3573-1280 FAX 03-3573-2804 URL http://www.tokenshata.co.jp</p>	<p>つるぎの屋</p> <p>冥賀 亮典也</p> <p>東京都北区西ヶ原4-35-11 TEL 03-3576-1763 URL https://www.tsunagiya.com/</p>	<p>研誠堂</p> <p>石塚 孝夫</p> <p>〒113-0034 文京区湯島1-2-11 TEL 080-15473-0055</p>	<p>高島 吉童</p> <p>代表 高島 吉童</p> <p>東京都北区滝野川7-16-16 TEL 03-5339-1118 FAX 03-5339-1116 URL http://www.premi.co.jp</p>	<p>刀劍販売月二回全国で展示即売会をしております</p> <p>株式会社コレクション情報</p> <p>代表取締役社長 村上 和比子</p> <p>岐阜県岐阜市西部本郷1-49 TEL 058-274-11960</p>	<p>やしま</p> <p>齋藤 雅稔</p> <p>東京都西東京市柳沢6-18-10 TEL 042-463-5310 FAX 042-463-7955</p>	<p>笹原 俊和</p> <p>〒869-2612 熊本県阿蘇市の宮町宮地4375-11 携帯 090-13078-4044</p>	<p>刀劍・小道具・鍔 刀劍杉田</p> <p>代表 杉田 侑司</p> <p>豊島区池袋2-49-15 TEL 03-3398-1146 FAX 03-3398-1146 Eメール info@token-net.com</p>
<p>(株)晴雅堂清水</p> <p>代表取締役 清水 儀孝</p> <p>〒111-0032 台東区浅草2-30-11 TEL 03-3842-3777</p>	<p>美術刀劍・小道具・武器類の売買・加工及び御相談承ります</p> <p>大阪刀劍会</p> <p>吉井 唯夫</p> <p>大阪市中央区日本橋2-7-11 TEL 06-6631-2210 FAX 06-6644-5464</p>	<p>銀座誠友堂</p> <p>中央区銀座5-1-1 銀座ファイブ2階 TEL 03-3558-8001 URL http://www.seiyudo.com</p>	<p>飯田高遠堂</p> <p>飯田 慶雄</p> <p>東京都新宿区下落合3-17-33 TEL 03-3395-1332 URL http://www.idakendo.com</p>	<p>株式会社 眞玄堂</p> <p>〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-7-17 TEL 03-3252-1784 FAX 03-3251-1419 Eメール info@samuraido.com</p>	<p>刀劍研師 白木 良彦</p> <p>〒135-0045 東京都江東区古石場1-2-17 TEL 03-3643-3228</p>	<p>刀劍書画骨董茶道具</p> <p>ギャラリーみそのう</p> <p>御園生 敏明</p> <p>東京都江東区亀戸2-18-6 長谷川ビル1F TEL 0120-1000-3388 FAX 03-5626-6134 URL http://www.surplusleopard.com/</p>	<p>武蔵国一の宮美術刀劍骨董品居合道古式銃専門店</p> <p>有限会社 清水商会</p> <p>代表取締役 清水 敏行</p> <p>〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-7 TEL 048-644-3477 FAX 048-647-7434 URL http://www.surplusleopard.com/</p>
<p>川越 優古堂</p> <p>三浦 優子</p> <p>埼玉県川越市新宿町1-9-13 TEL 049-249-0700 FAX 049-249-0702</p>	<p>御刀研磨処楽屋で検索</p> <p>研師 平井 隆守</p> <p>岐阜県関市清水町 TEL/FAX 0575-251-0928 Eメール okatanana@ddion.ne.jp URL http://www.katanatogi.com</p>	<p>株式会社 美術刀劍松本</p> <p>松本 富夫</p> <p>松本 義行</p> <p>千葉県野田市清水199-11 TEL 0477-222-1122 Eメール info@ouken-natsunoto.jp</p>	<p>刀劍古銭切手・古美術品 売買</p> <p>(株)城南堂古美術店</p> <p>代表取締役 田中 勝憲</p> <p>東京都目黒区上目黒4-31-10 TEL 03-3710-6776 携 帯 090-3208-9612</p>	<p>銀座長州屋</p> <p>東京都中央区銀座3-10-4</p>	<p>銀座日本刀ミュージアム 泰文堂</p> <p>川島 貴敏</p> <p>〒104-0061 東京都中央区銀座6-17-16 岩月ビル2階 TEL 03-3289-1366 FAX 03-3289-1367 Eメール taiwand@herbanc.jp URL https://www.taiwand.com</p>	<p>拵合せ致します</p> <p>日本刀鞘師 水野 美行</p> <p>〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町6-11 TEL 03-3353-8810</p>	<p>武家文化の美と心</p> <p>刀劍ギャラリー 樹林</p> <p>代表 森野 幸男</p> <p>〒803-0812 北九州市小倉北区室町2-12-15 TEL/FAX 093-1561-0449</p>
<p>刀劍小道具・中身・売買・工作及び相談承ります</p> <p>株式会社 むさし屋</p> <p>代表取締役 猿田 慎男</p> <p>〒590-0025 大阪府堺市堺区向陵東町1-2-19 TEL 072-257-1860 FAX 072-257-1885 URL http://www.musashiya.co.jp</p>	<p>赤荻刀劍店</p> <p>赤荻 稔</p> <p>茨城県下妻市下妻乙172の5 TEL 0296-444-2643</p>	<p>株式会社 安東貿易</p> <p>代表取締役 安東 考恭</p> <p>岡山県岡山市北区清輝橋2-1-32 TEL 086-226-11251 FAX 086-226-11251 URL http://www.katana-ando.co.jp</p> <p>刀劍チャンネル →YouTube</p>	<p>刀劍・書画・骨董 株式会社 和敬堂</p> <p>土肥 富康</p> <p>新潟県南蒲町1-2-16 TEL 0258-333-8510 FAX 0258-333-8511 URL http://www.wakeido.com</p>	<p>刀劍 飯塚 賢路</p> <p>〒337-0015 さいたま市見沼区蓮沼1004-1 TEL 048-688-2200 FAX 048-688-2200</p>	<p>銀座 盛光堂</p> <p>齋藤 恒</p> <p>東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル TEL 03-3569-2251(代) URL http://www.ginzaseikodo.com</p>	<p>福隆美術工芸 FORRYO FINE ARTS AND CRAFTS</p> <p>代表者 網取 讓一</p> <p>東京都中央区八丁堀3-1-3 飯野ビル1階 TEL 03-6280-4987</p>	<p>株式会社 舟山堂</p> <p>稲留 修一</p> <p>東京都千代田区内神田2-4-13 石垣ビルB1 TEL/FAX 03-5297-8144</p>
<p>刀劍・新古美術品</p> <p>株式会社 宝古堂美術</p> <p>代表取締役 山田 雄一郎</p> <p>東京都目黒区上目黒1-1-6 TEL 03-3792-0008</p>	<p>刀劍・古美術・古書画 (株)日宝</p> <p>代表取締役 田澤 二郎</p> <p>〒160-8321 東京都新宿区西新宿1-1-4 京王百貨店新宿店6階 刀劍サロン TEL 03-5321-5301(直通)</p>	<p>株式会社 金丸刀劍店</p> <p>金丸 一三</p> <p>東京都大田区東雪谷2-28-10 TEL 03-3728-3323</p>	<p>美術刀劍</p> <p>勝武堂</p> <p>東京都中野区本町4-45-10 TEL 03-3381-3071 URL https://www.shoubudo.co.jp</p>	<p>(株)日本刀劍</p> <p>伊波 賢一</p> <p>〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-11 TEL 03-3434-4321</p>	<p>(株)永和堂</p> <p>朝倉 万幸</p> <p>朝倉 忠史</p> <p>長野県長野市南町1-1-36 TEL 026-128-0001</p>	<p>奈良県無形文化財保持者</p> <p>月山 貞利</p> <p>〒633-0073 奈良県桜井市大字茅原2228-18 TEL 0744-431-7330 記念館 421-3230</p>	<p>札幌 横山美術</p> <p>横山 忠司</p> <p>〒060-0053 北海道札幌市中央区南三条東1-6 TEL 011-251-1765 FAX 011-251-1788</p>
<p>日本刀 販買取 有限会社 葵美術</p> <p>代表取締役 鶴田 一成</p> <p>渋谷区代々木1-54-16 TEL 03-3375-5553 Eメール info@aoljapan.jp URL http://www.aoljapan.jp</p>	<p>刀劍の店 玉山名史刀</p> <p>玉山 祐司・真敏</p> <p>岡山市北区田町1-1-11 TEL/FAX 086-227-4188 URL http://www.touken.com</p>	<p>大和美術刀劍</p> <p>大西 康一</p> <p>さいたま市南区大谷口5277 TEL 048-875-2122</p>	<p>もちだ美術</p> <p>持田 具宏</p> <p>さいたま市中央区上落合1-9-4 TEL 048-855-4792</p>	<p>(株)丸英刀劍</p> <p>銀座 丸英</p> <p>栃木県小山市乙女3-17-30 東京都中央区銀座7-13-22 友野ビル1階 URL https://maruhide-touken.com</p>	<p>刀劍鑑定書発行業務</p> <p>一般社団法人 倉敷刀劍美術館</p> <p>代表理事 佐藤 均</p> <p>〒710-1101 岡山県倉敷市茶屋町173 TEL 086-420-0066</p>	<p>株式会社 山城屋</p> <p>代表取締役 嶋田 伸夫</p> <p>東京都豊島区巢鴨1-21-8 TEL 03-3942-2701</p>	<p>服部美術店</p> <p>東京都中央区日本橋3-15-12 TEL 03-3274-5170</p>